

子どもに誇りを。地域にぬくもりを。税金に納得を。

日頃より、むろい一真の活動をお支えくださりありがとうございます。横浜市政には、給食・交通・保育・高齢者支援など、暮らしに直結する課題が山積しています。国の方針と地域の現場をつなぎ、市民の声を政策に変えるため、今月も一歩ずつ活動を進めています。

6月の参政党

6月の参政党は、国会で減税、交通空白、経済安全保障、帰化制度、不法滞在者対策、ワクチン問題などを質疑しました。全国では街頭演説やタウンミーティング、国政報告会を開催し、地域の声を直接聞く活動を継続。横浜市でも対話の場が設けられました。地方から日本を立て直す仲間づくりも進んでいます。

むろい一真の6月の訴え

- あんぜんで温かい中学校給食へ
- わが子を伸ばす放課後教育
- お年寄り子どもがつながる地域づくり
- 防災・インフラに強い街へ
- 税金の使い道を見える化し、ムダを正す
- 横浜市国籍条項の見直し



今月の重点テーマ：横浜市の中学校給食の現状

横浜市では、令和8年4月から市立中学校での全員給食が始まりました。共働き家庭の増加や就労形態の多様化により、保護者の弁当づくりの負担軽減が求められてきたことも、その背景にあります。一方で、給食は民間事業者による弁当配達形式、いわゆる「ハマ弁」を基にした方式が採用されています。そのため、生徒からは味や冷たさへの不満、保護者からは異物混入や栄養面への不安の声が上がっています。異物混入件数は令和7年に366件、**令和8年は4月と5月だけで101件**を超えています。普通の飲食店なら1件でも廃棄・回収命令が出されるところ、中学校給食は自主管理に委ねられています。小学校給食のように、温かく、安心して食べられ、十分な量と栄養が確保された中学校給食に近づけるため、予算と政策の見直しをこれからもむろいは訴え続けてまいります。

むろい一真は、市民生活を支える予算を守りつつ、税金の使い道を見直し、子育て世代・高齢者・地域の担い手が安心できる横浜を目指します。

むろいが
6月に実食した
令和8年小学校給食
少し量が寂しい→



←ハマ弁の例
(中学校給食)

活動報告 | 現場の声を 市政の言葉に

- ・横浜市の中学校給食について、実態状況と異物混入対策を市へ確認
- ・給食、保育、交通、高齢者支援を重点に政策化
- ・後援会の皆様と一緒に地域の声を集める活動を継続
- ・横浜市営バス減便の経緯を調査
- ・市民からの要望「南山田二丁目バス停にベンチを」を都筑区役所へ相談

チームメイトの皆さまへ

お困りごとや気づいたこと、改善したい市政課題などをぜひお寄せください。横浜の未来は、遠くの誰かではなく、私たち自身でつくるもの。皆さまからの地域の声こそが、むろい一真の力の源です。

muroi.sanseitou@gmail.comまで

編集発行：むろい一真後援会 | 2026年7月号